

唐津藩歴代藩主の移り変りとその政治③

～松平時代～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



(唐津ケーブルテレビジョンHPより)

■松平時代 3代14年

- 初代 松平和泉守乗久
- 2代 和泉守乗春
- 3代 和泉守乗邑(のりさと)

石高 7万石 (怡土郡内1万3000石を幕府が引きあげ)

松平家は将軍家と血縁関係にある譜代大名であるが、唐津在任は14年と短い。

初代松平和泉守乗久は、延宝6年(1678)下総の佐倉から入部。在任中の天和2年、領内に高札場が設けられた。この年、唐津領は飢饉に見舞われ1800人余の餓死者が出た。翌年には、餓死者供養のための回向寺として海士町に無量軒が建てられた。2代乗春の治世は4年余、また3代乗邑は5才で家督を相続し、翌年には志摩の鳥羽へ転封したので唐津に来ることはなかった。近松寺にある大仏石像(釈迦如来座像)は、乗久没後唐津藩主となった乗春が、父の供養のために建立したと伝えられている。

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html